

環境について
みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

Save The Kikuchi River



シジミはシジミ貝といって、きれいな水が流れて砂地であれば県内どこにでもいます。小さな淡水の二枚貝で、子供たちが遊びとして浅い水に足を浸しながら採っていました。子どもの遊び相手として親しみ深い小さな貝です。しかし小さくてたくさん取れないせい、食べ物としてはあまり親しいものはありません。

分布は広くアフリカ、オーストラリア、アジアの東北部、サハラ以南の日本列島と島々に住み、沢山の種類があります。日本にはヤマトシジミ、マシジミ、セタシジミの3種類が知られています。セタシジミは琵琶湖特産でヤマトシジミとマシジミは全国的に分布しています。私たちがいつも接しているのはマシジミで川の中流以上のきれいな砂地に生息しています。

マシジミは雌雄同体で卵は親の外とう腔の中にかえり、幼貝になってから母貝の外に出ます。卵胎生ですが成長が遅く生体も15ミリ前後にしかありません。色はオリブ色から後に黒くなります。きれいな

砂地で採れるので砂をはかせて量は少なくても土用のシジミは黄痘の薬として重宝がられています。

一方ヤマトシジミはマシジミより大きく、汽水性で大きな川の下流域で海水の影響を受ける河口近くの泥地に住み、雌雄異体で卵を産みます。成長すると光沢のある黒色になります。この辺りで採れるマシジミは量が少ないので商品としては出回りが少ないですが、ヤマトシジミは大きな川の河口付近で大量に採れるので、行商に出たりします。だから魚屋で扱っているシジミはおおかたヤマトシジミですが、穴道湖などは以前からヤマトシジミの産地として有名です。江戸のシジミ売りは今もテレビの時代劇で時々見ることがあります。シジミの他ハマグリ、アサリ、バカガイなどを二種独特のふれ声で住民に親しまれてきたようです。江戸では殻付きで売られていたが、京阪地方ではシジミのむき身もあつたようです。シジミは夏においしくて

「土用シジミは服薬」「土用シジミは黄痘の薬」と昔から言われています。寒シジミの方が味が良いという地域もあります。シジミは1年を通じて味が良いということでしょう。

人間がシジミを食し始めたのは古く、シジミの貝塚も何ヶ所か見つかっています。貝塚ができるほどたくさん採って食べていたということですが、主として海水の影響のあるヤマトシジミの貝塚です。万葉集にもシジミを詠んだ歌があります。シジミを「四時美」と記してあります。これは四季を通じて身近な食べ物であったことを意味していると思います。

シジミの主な産地は穴道湖ですが、菊池川、筑後川河口の少しは出回っていると思います。スーパーなどで売っているのはほとんど穴道湖産と思われれます。成分としてはいずれもオルニチンと鉄分が肝臓にいいと言われています。

調理法としてはほとんどが味噌汁で、泥を吐かせ鍋に水から火にかけて貝の口が開いたらすぐに火を止めて汁を別にしておいて、その汁に味噌を溶かすのがコツです。またその煮汁で飯を炊くとシジミ飯ができます。

最近「外来性生物」のタイワンシジミが生息していますが、これは生態系に影響しますので、放流には注意して下さい。

歴史調査の楽しみ方 志口永城跡 16

大田 幸博

(元菊池川流域同盟 和水町水援隊長)

8月6日(火)に、全ての調査を終

えました。平成24年2月27日(月)から開始しましたが、日平城跡の調査報告書を作成するために、5ヶ月間、現場を休みましたので、実質、1年3ヶ月の調査期間でした。いつでも、最後は、万全の注意を払います。一旦、幕を降ろしますと、調査の再開は、事実上、不可能だからです。

掲載図面は、確定した城域です。長さは、北縁と東縁が220m、南縁が240m、西縁280mでした。この中で西縁は、100m分が図中の通路②に該当します。(通路①は、150mが確認出来ます)。さらに、南縁は長さ12m分が土橋になります。

ここで、城跡の総括をします。土橋は、極端な地形の「くびれ部」に手を加えたもので、城跡の唯一の出入り口になります。高く切り立った狭い城壁の上を歩いている感じがします。これ程、立派な土橋は、県内に、類例がありません。

ん。

通路①は、土橋から続くもので、丘陵本体の東縁・直下を走行しています。現況からして、平時の通路であったと考えられます。

通路②は、その下の丘陵の斜面に造成されており、軍用と思われる。先月号でも説明しましたが、有事の際に、兵士が移動する手はずになっていたのでしょうか。通路下の斜面は、絶壁の状態にあります。まず、敵勢の侵入は、不可能です。

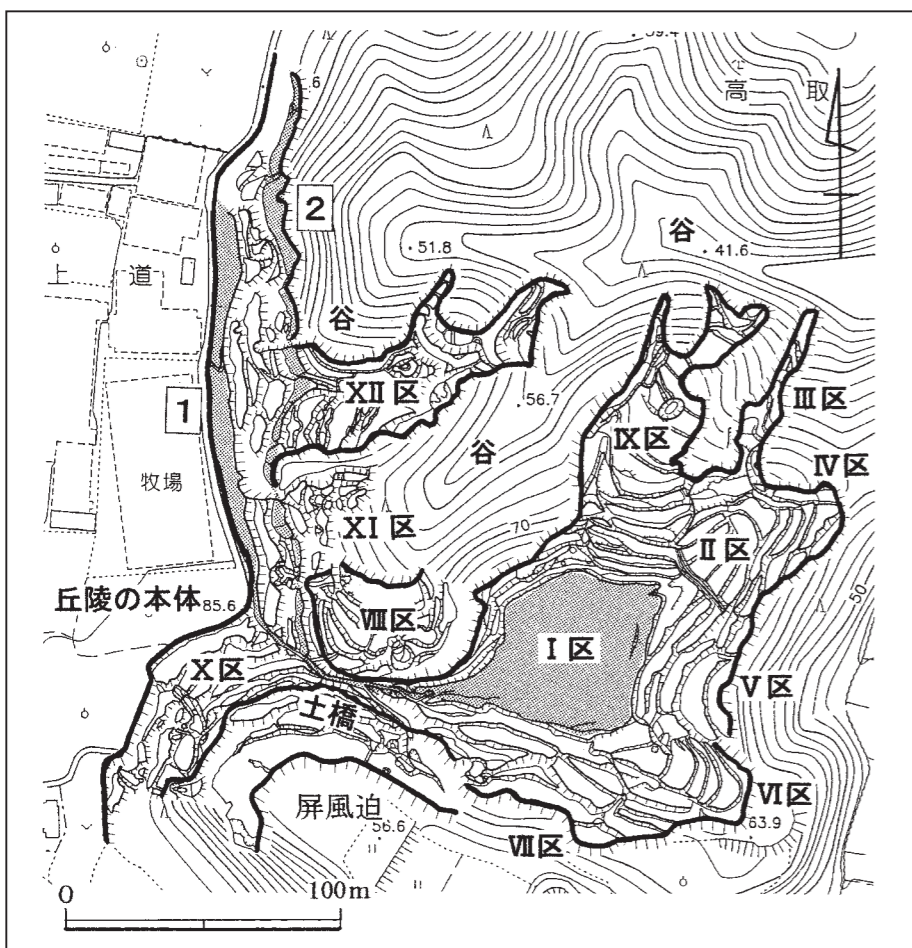
地形を最大限に利用しており、コンパクトにまとまった平山城です。典型的な逃げ込みの城です。文献に記録がないのは、実戦を経験していないからでしょう。

集落よりも、標高が低い所にあります。全く、例外的な立地条件下で、土橋の存在と共に、この城跡の付加価値を高めています。とても、勉強になりました。日平城跡は、本格的な山城で

堂々とした城構えが特徴です。一級品の合戦の記録も残っています。これに対して、無名の志口永城跡は、調査の結果、玄人受けする城跡である事が分か

りました。

次回から、新たな調査区の江栗城跡の報告に変わります。それにしても、今年の夏は、暑かったですね。



志口永城跡 全体図遺構図